茨城の魅力発信！ 空き家旅行プラン

土浦第一高等学校

2年B組 人見颯希 2年C組 飯塚郁香

2年F組 齋藤愛月

指導教諭：岡部真二先生 植田恵津子先生

【abstract】

Today in Japan, the number of empty houses is increasing nationwide. Moreover, the empty house rate in Ibaraki Prefecture is higher than the national average. Empty houses have a negative impact on our lives and may even cause health problems. Therefore, we thought of using empty houses in a way that would make Ibaraki Prefecture attractive. Our plan will also help prevent people from leaving the prefecture, which is the cause of empty houses, and attract people from outside the prefecture.

【要旨】

今日の日本では全国的に空き家の数が増加している。その上、茨城県の空き家率は全国平均を上回る事態となっている。空き家は私たちの生活に大きな悪影響を及ぼし、健康被害を被ることにもなりかねない。そこで、私たちは茨城県に魅力を感じてもらえるような形で空き家を活用しようと考えた。そしてこの私たちのプランは空き家発生の原因となる人の離散を抑え、県外からの人を呼び込むことにも繋がるだろう。

【研究動機】

班員の身近な所にも空き家があり、それに対して危険を感じていることがこの探究を進めていくきっかけとなった。実際、空き家の放置による悪影響は大きく、近隣住民にとって危険が大きい。例えば、木々が道路に飛び出したり動物のすみ家になっているという苦情が市役所にも多く寄せられている。また、空き家増加の一方で新築件数も増加傾向にあり、それに伴う資源の消費などが環境問題にもつながる。そのため、空き家を有効利用する方策がないか考えた。

【目的】

- ・空き家の数を減らす
- ・茨城県に人を呼び込めるような空き家の活用の仕方をして、空き家発生の原因となる人口移動や人口減少を抑える

【仮説】

空き家をリノベーションし観光の拠点とすることで、空き家問題の改善に貢献する。

【調査方法】

- ・インターネット調査で茨城県の空き家の現状を調べる
- ・一高生を対象に空き家のイメージをアンケートする
- ・土浦市の空き家問題について理解を深める
- ・仙台市役所での聞き取り調査を行い、土浦市との共通点、相違点などを考察する
- ・空き家の利用方法を考え、提案する

【調査結果】

(1) インターネット調査およびアンケート調査

初めに、茨城県のホームページを調べた。平成30年の空き家率(総住宅数に占める空き家の割合)は、全国平均では13.6%であるのに対し、茨城県は14.8%と、全国平均よりも高い [図1]。

〔図1〕 茨城県公式ホームページ 県内の空家の状況

また、土浦一高生に対して空き家のイメージについてアンケートした。55回答が集まった。最も多かったのは「古い・汚い・ボロボロ」で54%。続いて「犯罪者・治安の悪化」が14%、「怖い」が10%を占めた。一方で「お化け屋敷みたいで好き」という肯定的な意見も1つあった。しかしながら、多くの人が空き家に対してマイナスのイメージをもっており、その払拭が必要と考えられる。

(2) 土浦市における空き家の課題

2024年7月に土浦市役所 安全対策課を訪問させていただき、土浦市における空き家の課題についてお聞きした。市役所での主な対策は、空き家の管理を持ち主に通知したり、通報のあった家の調査。一方、空き家は個人の資産であるため、市として積極的に利活用を行うことは難しいようだ。

また、人口の減少も空き家の増加に関係している。人々が他県に移住する際に、その人たちが住んでいた家が放置される。

(3) 仙台市との比較

土浦市と仙台市の空き家問題の共通点としては、市が利活用にまで手を出すことは難しいということ、交通が不便なところで空き家が発生しやすいことの2点であった。

一方、相違点は下の表にまとめた〔表1〕。仙台市の空き家率が低い理由として、職員の方は「第一次産業から第二次産業のバランスが良いこと」と、「学生の多さ」などをあげている。その空き家問題の深刻度に応じ、土浦市は1つの専門部署を設置しているが、仙台市は1つの部署で集中的に対策をするのではなく、2つの部署が協力する形でも対策は十分行えるようだ。

	土浦市	仙台市
空き家率 (全国平均 13.6% H30)	高い (16.0% H30)	低い (11.1% H30)
空家対策の部署	1つ (生活安全課)	2つ (市民生活課・住宅政策課)
困り具合(五段階評価)	★★★★☆	★★☆☆☆

[表1] 土浦市と仙台市の空き家問題の相違点

(4) 利用方法の検討

空き家の利用方法として、私たちは宿泊施設としての利用を考えた。宿泊施設として空き家を運営すれば、空き家問題の解決と同時に、茨城県に観光客を呼び込むことができるのではないかと考えた。

また、旅行の中でも今回はワーケーションに焦点を当てた。

日帰りではなく宿泊を想定している理由としては、下記の「令和4年観光客動態調査」のデータをもとにした [表2]。ビジネスを主な目的として観光に来る来県者の人数は、日帰りよりも宿泊の方が約2千万人も多い。観光消費額の観点からも、宿泊を想定する方がビジネスとして成立しやすく、茨城県の発展にもつながると考えたからである。

令和4(2022)年通年の結果

(単位：千人回)

推計項目	総数	宿泊			日帰り		
		計	県内	県外	計	県内	県外
観光目的	32,257	1,670	409	1,261	30,587	16,522	14,066
ビジネス目的 兼観光	3,598	2,799	844	1,955	800	39	760
合計 (対前年増減)	35,855 (+17)	4,468 (+801)	1,253 (+119)	3,215 (+681)	31,387 (▲784)	16,561 (▲2,202)	14,826 (+1,418)
構成率 (前年の構成率)	100%	12.5% (10.2%)			87.5% (89.8%)		

※ 上表の「県外」には、訪日外国人の入込客数を含む。

[表2] 観光客の入込状況(令和4年観光客動態調査報告より)

【考察】

今回の調査から、茨城県の空き家率は全国的に高く、その原因としては、人口の県外への流出であると考えられる。

【結論】

私たちが茨城県の空き家問題を改善する方法として考えたのが、茨城県内の空き家を宿泊施設としてリノベーションし、県外から人を茨城に呼び込む旅行プラン”いばケーション”だ。いばケーションではワーケーションに焦点をあてている。今回、観光の中でもワーケーションに重点を置く理由としては、すでに普通の観光・旅行業は茨城県内で十分実施されており、新たなビジネスは不要かつ参入が難しいと考えたからである。茨城県の魅力向上、そして空き家問題の解決。この二つに少しでも貢献することを目指したのが、私たちのプランである

以下の【表】は旅行プランの一例を示す。

1日目	昼	宿泊施設に到着
	午後	土浦で蓮根を掘る農業体験
	夜	つくば市にある「焚火とコーヒー」でさつま芋やパンを焼きながら焚火を鑑賞 その後、「つくばエキスポセンター」で星空観賞
2日目	朝～夕方	筑波山を窓から眺めつつ仕事に取り組む
	夕方	霞ヶ浦沿いを散歩
3日目	朝	仕事
	午後	「つくば霞ヶ浦りんりんロード」をサイクリング。美しい自然の風景を楽しむ
		自転車で道の駅により、茨城のお土産を購入
	夜	帰宅

【表】旅行プランの例 2泊3日を想定

【展望】

今後はこの旅行プランをビジネスとして確立させ、少しでも多くの空き家を減らしていきたい。

【謝辞】

本探究を進めるにあたりご協力いただいた、土浦市役所安全対策課空家対策係来栖様、保蔵様、仙台市役所市民生活課上岡様、佐藤様、住宅政策課吉田様、またアンケートに回答してくださった方々にはこの場を借りて感謝申し上げます。

【参考文献】

茨城県 令和5年 住宅・土地統計調査における茨城県の状況 2024年 7月31日閲覧
<https://www.pref.ibaraki.jp/doboku/jutaku/minkan/01class/class14/09akiya/09akiya.html>

茨城県 令和4年観光客動態調査報告 2024年7月22日閲覧

土浦市 第2期土浦市空家等対策計画

土浦市 土浦市空家対策リーフレット